

東大工学部 × 篠塚建次郎

Kenjiro Shinozuka



篠塚氏と三菱ランサー-GSR(A73)

数多くの経験を積むことにより 学生たちの世界観は大きく育つ

東大生たちによって運営される「海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト2015」も、今回の挑戦で5回目を数える。その挑戦する意図を顧問である草加浩平特任教授にお伺いしてみた。



草加浩平特任教授と
広報担当金山玄クン

「このプロジェクトは社会教育の一環として始まりました。企画書の制作から始まり、エントリー、ベース車両探し、ラリー仕様へのモディファイ、完成した車両を海外へと送り出す作業、スケジュール管理、メカニックとしての車両メンテナンスなど、プロジェクトに関わる全ての工程を学生自身が行っています。もちろん、海外ラリーへの参戦は簡単なことではありませんが、参加費捻出等の渉外活動を含め、その苦労を実際に体験することで学生たちは大きく成長して行くのです。このプロジェクトへの参加は1年限りとなり、同じ学生が翌年のプロジェクトに係わることはできません。本来なら前年の経験やデータを引き継ぐことで、ラリーへの参戦はスムーズに運びますが、それでは『経験を積む』ことにはならないのです。社会教育の一環として、学生たちが海外ラリーを通じてグローバルな視点を持ってくれることがこのプロジェクトの狙いなのです。もちろん、ラリーに出場するからには優勝を目指しますが、それはあくまでも『目標』であって『目的』ではありません」

学生が「篠塚建次郎」に白羽の矢を立てた理由

21名の東大生による「海外ヒストリックラリー参戦プロジェクト」。20歳という若さを持つ彼たちがなぜ「篠塚建次郎氏」にドライバーとしてオファーをしたのだろうか？ 広報担当である金山玄クンにお話を聞いてみた。

「モータースポーツの専門誌やインターネットの情報によって、ボクたちが生まれる以前から篠塚さんが世界で活躍されていたことを知りました。過酷なラリーで頂点を極め、数々の経験を持つ『伝説のドライバー』は、ボクたちに手の届くことのない雲の上の存在と思っていたのですが、自分達が選んだベース車両、三菱ランサーでの参戦にあたり、どうしても篠塚さんにドライブをしていただきたくお願いをしたところ、快く引き受けて戴きました。世界を知り尽くした篠塚さんとの時間はボクたちにとって大きな経験になることは間違いありません。篠塚さんと一緒に走れることで学生スタッフのモチベーションは最高潮に達しています！」



篠塚建次郎 (Shinozuka Kenjiro)

ラリードライバー 1948年11月20日生 東京都出身
1967年、大学在学中であった18歳からラリーを初め、1970年には三菱自動車のファクトリードライバーとなる。国内では圧倒的な強さを見せ、1975年には海外ラリーに参戦。1991、92年にWRCアイボリーコーストラリー2連覇。1997年にパリ〜ダカールラリー総合優勝など、輝かしい功績を残している。2002年、ダカールに小学校(ママ アラッサン ライド ヨッフ)を設立するなど、数多くの社会貢献を果たしている。現在は全国各地でドライビングスクールを開催すると共に、講演会活動やモータースポーツの普及活動を展開。



1997年サザンクロスラリー-篠塚車

【篠塚建次郎 オフィシャルサイト】

<http://www.shinoken.net/index.htm>

